

縁起物としての正月の飾り！薬にも欠かせません **ダイダイ** (ミカン科)



Citrus aurantium Linné var. *daidai* Makino

部位	未熟果実	成熟果皮
生薬名	枳実 (キジツ)	橙皮 (トウヒ) 局方収載
成分	ヘスペリジン、ナリンギン (フラボノイド) d-リモネン (モノテルペン) シネフリン (アルカロイド)	
薬理	抗アレルギー作用、交感神経興奮作用など	
薬能	理気薬 (枳実)	
漢方	大柴胡湯、四逆散など	

インド、ヒマラヤ原産の常緑小高木。日本へは、中国を経て渡来しました。和名は、前年と今年の果実が同じ株に実っていることが多く、世代を引き継ぐ意味の「代々」と名付けられ、日本では子孫繁栄を願い、正月の飾りとして用いられてきました。漢方では、小さな緑色の未熟な果実に由来するものを枳実と呼び、胸のつかえや息苦しさなどの改善に利用されます。一方で、写真のように成熟した果皮は橙皮という生薬です。この生薬は漢方薬には配合されませんが、芳香性苦味健胃薬として一般薬に用いられています。

ボケ (バラ科)

ボケとツッコミではない生薬。カリンも仲間？

Chaenomeles speciosa (Sweet) Nakai



部位	偽果
生薬名	木瓜 (モッカ)
成分	クエン酸やリンゴ酸、タンニンなど
薬理	抗炎症作用、抗インフルエンザ作用など
薬能	祛風湿薬、平肝舒筋 (筋肉痙攣の治療)
漢方	鶏鳴散加茯苓 (けいめいさんかぶくりょう)

中国原産の落葉低木で、日本では観賞用で古くから庭木として栽培され多くの品種があります。花は秋ごろから春まで開花し、雄花と両性花をつけますが、両性花の数が少なく開花数ほど実を結びません。和名の由来は生薬名の木瓜 (モッカ) からボケになったという説があります。日本での木瓜は、カリン *Pseudocydonia sinensis* (Thouin) C.K.Schneid. の偽果も使用します。以前はカリンも *Chaenomeles* 属でしたが、分類が変更されています。また、偽果が正式な薬用部位ですが、初冬に目立つ黄色の果実だと考えてもらって大丈夫です。カリンは民間で鎮咳去痰薬としてシロップ漬けなどにして利用されます。東南アジアでは酸っぱいスパイスとして利用されています。



ホームページでも
ご覧いただけます